

Zoomで何でも読もう会

書物名	『檸檬』 梶井基次郎 著	開催 日時	2021.5.4	推薦	プロマネ
巻・章	全編		Zoom 読み会	出席者	10名
<p>1925（大正14）年同人誌に発表。作者の処女作かつ代表作 短い青空文庫で手軽に読めるのでご一読をお奨めしたい。従ってあらすじの類いは割愛する。</p> <p>「えたいの知れない不吉な塊」に主人公は始終おさえつけられている。京都に下宿の貧乏学生で、結核や神経衰弱の持病がある。</p> <p>＜不吉な塊が何を意味しているか＞ 議論が沸いた。 →若者特有の不安なのか、中高年はどうなのか、麻痺しているのか。 →やはり持病とセットではないのか など</p> <p>＜京都との関係＞ →京都丸善の重圧 →千年の古都の重圧は？ →京都を愛していると思う。が、物語の背景としては強くないのでは。</p> <p>＜檸檬の存在感＞ →不安を吹き飛ばす存在としてのレモンの迫力。描写力 →八百屋の情景、レモンが時間の経過とともに存在を増していく描写力 感性の豊かさをみんなで味わった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					